

# 保育原理

## 概要

保育の専門職として学習を進めるための基礎的な知識、意識すべき論点を取り上げ、その背景や現状について理解を深める。また、日本を中心として保育の思想、制度の歴史の変遷を整理し、現代社会における現状と課題について学ぶ。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

保育の意義について理解する。  
 保育所保育指針や幼稚園教育要領等における保育の基本について理解する。  
 保育の内容と方法の基本について理解する。  
 保育の思想と歴史の変遷について理解する。  
 保育の現状と課題について考察する。

## 各回の内容

1. 保育とは何か
2. 保育の基盤としての子ども観
3. 子ども理解
4. 保育の基本と保育内容・方法
5. 保育の計画と実践
6. 子どもが育つ環境
7. 子どもの健康と安全
8. 障がいのある子どもへの対応
9. 保育の歴史
10. 保育者の専門性・役割
11. 家庭支援と子育て支援
12. 保育の評価
13. 保育の質の向上
14. 保育の現状と課題
15. まとめ
16. 試験

## 準備学習

各回の内容について予習する(教科書および関連図書を読む)こと  
 保育所保育指針・幼稚園教育要領を熟読し、授業に備える

## 評価方法

試験70%  
 毎回の振り返り30%

## 教科書

森上史朗 他 編 『最新保育講座 1 保育原理』 ミネルヴァ書房、2015年

## 参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館、2008年  
 厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館、2008年  
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 フレーベル館、2015年

# 教職入門

## 概要

教職課程を履修する上で、自らの人間性を振り返り、教職への入門的な知識や技術を身に付け、教職への自覚を持つ。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

教職課程を履修する上での心構えを持ち、教職への入門的な知識や技術を身に付け、自覚を持つ。

## 各回の内容

1. オリエンテーション

2. 教職課程における幼児教育

3. 幼稚園教育要領とは

4. 校務と校務分掌

5. 幼稚園教育要領 総則

6. 生きる力の意味と意義（全人教育）

7. 生きる力を育てる保育とは 「健康」

8. 生きる力を育てる保育とは 「人間関係」

9. 生きる力を育てる保育とは 「環境」

10. 生きる力を育てる保育とは 「言葉」

11. 生きる力を育てる保育とは 「表現」

12. 生きる力を育てる保育とは 「総合」

13. 教師の在り方

14. 環境設定における意義

15. まとめ

## 準備学習

幼稚園教育要領を熟読する。

## 評価方法

幼稚園教育要領を含む専門教養の知識・技術の習得度（事例研究）

## 教科書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』最新版

## 参考文献

随時紹介

# 保育課程論

## 概要

教育課程と保育課程の意義、指導計画の役割と立て方などについて理解を深める授業を展開する。グループワークなどを通し、指導計画を作成してみる。また、授業時間に「親と子の広場」に参加した際の気付きを話し合う場を設け、子ども・保護者・保育者への理解も深めるとともに、自分の保育の改善点を見つめられる様にする。

担当教員	堺秋彦・長谷川美香
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

保育をするうえで重要な計画について理解するとともに、実際に作成出来る力を養う。自分の保育を振り返り、改善点を見つけ、保育の充実につなげられる様になる。実習や保育現場で役に立つ、実践力を身に付ける。

## 各回の内容

1. 保育課程、教育課程とは・計画を立てる意義
2. カリキュラムの基礎理論
3. 保育所や幼稚園、施設における計画
4. 保育の評価と改善
5. 保育所の保育課程と計画（0～2歳）
6. 保育所の保育課程と計画（3～5歳）
7. 幼稚園の教育課程と計画
8. 指導計画作成の基本、心掛けること
9. 指導計画作成の基本、心掛けること
10. 指導案作成
11. 指導案作成
12. 発表
13. 発表
14. 小学校との連携・指導要録について
15. 保育の充実、保育の質の向上

## 準備学習

「親と子の広場」への参加など、実習以外で、子どもや保護者と関わる機会を出来るだけもつこと。子どもの年齢ごとの発達に関する知識をつかんでおく。前もって教科書を見ておくことが望ましい。

## 評価方法

授業態度・取り組み（指導案や「親と子の広場」での気付きの発表など）50%  
 授業の際の小レポート20%  
 最終レポート30%

## 教科書

柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編『保育課程・教育課程総論（最新保育講座）』ミネルヴァ書房 2010年

## 参考文献

その都度、授業で紹介する。

# こども家庭福祉

## 概要

児童の権利を保障する観点から児童とその家庭を取り巻く生活の現状とその課題について取り上げる。また、児童とその家庭が抱える福祉問題に対する施策、制度、サービス等について取り上げる。各回の内容に沿って、教科書を中心に講義を進めていくが、理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討も行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

現代社会における児童家庭福祉の意義について理解することができる。  
 児童家庭福祉と保育との関連性および児童の人権について理解することができる。  
 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解することができる。  
 児童家庭福祉の現状と課題について理解することができる。  
 児童家庭福祉の動向と展望について理解することができる。

## 各回の内容

1. 現代社会と児童家庭福祉
2. 児童家庭福祉の概念と理念 児童家庭福祉の概念と範囲・理念
3. 児童家庭福祉の概念と理念 児童の権利と児童虐待
4. 児童家庭福祉需要の内容と把握方法
5. 児童家庭福祉の実施体制 児童福祉の法制・児童福祉法
6. 児童家庭福祉の実施体制 児童福祉関連法規
7. 児童家庭福祉の実施体制 児童福祉の組織
8. 児童家庭福祉の実施体制 児童相談所および児童福祉司・児童心理士
9. 児童家庭福祉の実施体制 福祉事務所・保健所・家庭裁判所等および児童福祉施設
10. 児童家庭福祉・保健・医療サービスの現状 保育と養護および施設福祉サービス(里親を含む)
11. 児童家庭福祉・保健・医療サービスの現状 在宅福祉サービスおよび保健・医療サービス
12. 民間サービスの意義と役割および現状
13. 児童および家庭に対する相談援助活動
14. 児童家庭福祉をめぐる我が国と諸外国の動向
15. まとめ
16. 試験

## 準備学習

各回の内容について予習する(教科書および関連図書を読む)こと。

## 評価方法

試験70%  
 毎回の振り返り30%

## 教科書

相澤譲治・井村圭壯編著『児童家庭福祉の理論と制度』勁草書房、2011年

## 参考文献

その都度、紹介する。

# 保育基礎演習

## 概要

保育実践の基礎について保育参加観察での実践を振り返りながら学ぶ。乳幼児とかかわる中での気づきや疑問、葛藤をVTR記録を見ながら話し合い、共有する中で考えあう機会を重ねる。実習記録の書き方を、参加観察の中のエピソードを取り上げながら学ぶ。

担当教員	狩野奈緒子・長谷川美香
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

保育実践の基礎について、保育参加観察を通して、学び理解する。  
実習記録を書くにあたっての視点や、書き方について実践を通して理解する。

## 各回の内容

1. ガイダンス
2. 子どもとのかかわり
3. 親と子の広場について
4. 保育所の保育について
5. 参加観察中での気づき
6. 発達と遊びの変化
7. 子どもとのかかわりから学ぶこと1
8. 子どもとのかかわりから学ぶこと2
9. 子どもとのかかわりから学ぶこと3
10. 保育者と子どもとのかかわり
11. 観察記録の書き方1
12. 観察記録の書き方2
13. 観察記録の書き方3
14. 参加観察からの気づきを話し合う
15. 参加観察からの話し合い発表とまとめ

## 準備学習

観察の視点を持って保育参加観察に臨む。

## 評価方法

保育観察事後レポート30%  
発表と課題レポート70%

## 教科書

なし

## 参考文献

その都度紹介する

# 保育内容総論

## 概要

今日の保育の現状や課題について理解を深める。  
保育内容全般を概観し、保育者の子ども理解の過程や、保育者に求められる姿をまなぶ。

担当教員	堺秋彦 奥田美由紀
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

保育の目標、子どもの発達、保育の内容を通して、総合的な保育内容の理解を深めることができる。

## 各回の内容

1. 保育の基本と保育内容
2. 5領域のねらいと内容
3. 環境を通して行う保育
4. 子どもの育ちと保育内容
5. 子どもの育ちと保育内容
6. 子どもの育ちと保育内容
7. 子どもの育ちと保育内容
8. まとめ

## 準備学習

テキストを読み、授業に備えること

## 評価方法

振り返りシート40%  
課題レポート60%

## 教科書

『保育内容総論』株式会社みらい

## 参考文献

幼稚園教育要領解説  
保育所保育指針開設  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

## 保育内容演習（人間関係）

### 概要

人間関係の基礎を培う幼児期の重要性や適切なかわりについて学びを深める。  
保育現場のエピソードを中心として、保育の中の人間関係の理解を深める。

担当教員	堺秋彦 奥田美由紀
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

### 目標

人間関係の基礎を培う幼児期における人とのかわりの重要性、および人間関係を育むための保育者の役割について理解を深めることができる。

### 各回の内容

1. 保育の中の人間関係
2. 子ども観の転換
3. 領域「人間関係」の理解
4. 領域「人間関係」の理解
5. 子どもの見方・捉え方（事例からの読み取り）
6. 子どもの見方・捉え方（グループ討議）
7. 事例からの読み取りの共有（発表）
8. まとめ

### 準備学習

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針の領域「人間関係」を読んでおくこと  
「親と子の広場」に自主的に参加し、子どもの遊びを観察してみる

### 評価方法

振り返りシート40%  
課題レポート60%

### 教科書

幼稚園教育要領解説

### 参考文献

保育所保育指針解説  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

## 保育内容演習（言葉）

### 概要

領域「言葉」に関して、具体的な事例等を取り上げながら、子どものことばの育ちについて学ぶ。保育の中で出会う子どもとの係わりの中で、ことばの力を育むための保育内容や係わりの在り方について、観点を挙げて考察を深める。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

### 目標

ことばの発達を促す保育内容について理解し、保育者としての子どもとの係わり方について考える。

### 各回の内容

1. 保育の基本とは
2. 保育の専門性とは
3. 領域言葉のねらいと保育者の役割
4. 領域言葉と保育内容
5. 環境構成と領域言葉
6. 指導計画と領域言葉
7. 保育実践の中で領域言葉を考える
8. まとめ

### 準備学習

子どもの日常的なコミュニケーションやことばの使い方に注目し、事例を通して考えることに興味を持つ

### 評価方法

小レポート30%  
課題レポート70%

### 教科書

最新保育講座 保育内容「言葉」 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編 ミネルヴァ書房

### 参考文献

その都度紹介する

## 保育内容演習（表現）

### 概要

こどもの心性を理解したうえで、人格形成の基礎を培う幼児期に大切な「紙芝居」、「手品」に触れ、こどもの視点に立ってそれぞれ保育の中で活用できるようその理論と方法を学ぶ。また、紙芝居は12場面のオリジナル紙芝居を作成する。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

### 目標

乳幼児の心性を理解し、手遊び、紙芝居、絵本、素話、手品を通して、こどもの表象思考を高め、「感性」を養う技術を身につけることができる。

### 各回の内容

1. オリエンテーション
2. こどもと手品（指輪）
3. こどもと手品（ハンカチ）
4. こどもと手品（折り紙）
5. 紙芝居作成
6. 紙芝居発表
7. 紙芝居発表
8. まとめ

### 準備学習

授業でおこなう手品の練習や紙芝居作成の準備を進める。また、指輪（おもちゃで可）、指輪のケース（指輪入れ）、クレヨン(16色以上)、絵の具を各自で事前に準備する。クレヨン、絵の具持参時は授業で指示する。

### 評価方法

課題達成度（テスト）100%（ハンカチ20%、折り紙25%、指輪25%、紙芝居30%）

### 教科書

なし。授業で資料を配布する。

### 参考文献

その都度、授業で紹介する。

# 保育内容演習（表現）

## 概要

こどもの心性、発達段階を理解したうえで、幼稚園や保育所の行事でおこなわれる発表会（お遊戯会）に向けたリズム劇の年齢別興味・関心の促し方を学ぶ。またグループに分かれて、「ももたろう」、「ピーターパン」の演目を完成させ、発表会をおこなう。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

リズム劇やダンス、遊戯曲を聴いて、こどもがどのようなことを「感じ」、「イメージ」するのかをこどもの視点に立って考えながら、リズム劇やダンス、遊戯などの表現活動を通じて保育者としての表現力とこどもへの興味・関心の促し方を身につける。

## 各回の内容

1. オリエンテーション ・ 表現と遊戯・ダンス・リズム劇（ビデオ）
2. 幼児に向けた「遊戯・ダンス・リズム劇」の興味・関心の促し方 ・ 演目決定
3. リズム劇練習 1
4. リズム劇練習 2
5. リズム劇練習 3
6. リズム劇練習 4
7. 発表会
8. まとめ

## 準備学習

課題であるリズム劇の構成を考え、発表会で使用する手具や小道具を制作する。また、ブックファイル（20シート以上）を準備する。

## 評価方法

課題達成度 50%  
発表会 50%

## 教科書

なし。授業で資料を配布する。

## 参考文献

その都度、授業で紹介する。

# 保育内容演習（健康）

## 概要

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

幼稚園実習 で観察したこどもの様子や教師の働きかけを振り返り、「こどもにとって遊び」とは何か、「こどもにとって健康とは何か」を考察する。その上で、グループで発達段階に応じた「遊び」の指導案を作成し、模擬遊びを行う。

## 目標

保育所や幼稚園における集団生活において、こどもが苦しい、悲しい、辛いと感じるような困難なことに対してこども自らの力で乗り越え、日々の生活を「楽しい」と感じて送ることができるようになるためには保育者はこどもの気持ちをどのように理解し受け止め、援助をすればよいのかまた、どのような環境を設定することが必要なのかを考察できる。

## 各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「健康」の定義と「こどもの健康」について
3. 模擬遊び（3歳児 4歳児 5歳児）
4. 模擬遊び（3歳児 4歳児 5歳児）
5. 模擬遊び（3歳児 4歳児 5歳児）
6. 模擬遊び（3歳児 4歳児 5歳児）
7. 模擬遊び（3歳児 4歳児 5歳児）
8. まとめ

## 準備学習

- ・第2回目の授業までに、幼稚園教育要領解説 p 2 ~ p 8 9（序章・1章・2章《健康》）までを熟読しておく。

## 評価方法

- 指導案 50%  
 模擬遊び 50%（参加態度含む）

## 教科書

文部科学省 編 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2010年

## 参考文献

その都度、授業で紹介する。

## 保育内容演習（環境）

### 概要

子どもを取り巻く環境の重要性を認識し、子どもを取り巻く環境について学びを深める  
 人的環境としての保育者の役割を知り、具体的なかかわりについて考えを深める

担当教員	堺秋彦 奥田美由紀
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

### 目標

乳幼児期における環境の重要性を認識し、子どもを取り巻く環境について学びを深め、保育者として適切な援助ができる。

### 各回の内容

1. 環境とは
2. 子どもの育ちと領域「環境」
3. 子どもの育ちと領域「環境」
4. 子どもの主体的な遊びと環境
5. 保育者の意図と環境構成
6. 環境構成の実際
7. 環境構成の実際
8. まとめ

### 準備学習

保育室・園庭・地域の環境について目を向けてみる  
 「親と子の広場」に参加し、子どもと環境とのかかわりを観察してみる

### 評価方法

課題レポート 50%  
 提出作品 50%

### 教科書

幼稚園教育要領解説

### 参考文献

保育所保育指針開設  
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

# 保育表現技術(音楽表現)

## 概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法などの技法を身につける。  
できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。  
弾き歌いができるようにする。  
楽譜を読むために必要な基本的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田・村山・菅野(弘) 福地・長谷川
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

## 各回の内容

1. オリエンテーション・4月の歌(1)
2. 4月の歌(2)・4月の歌(3)
3. 4月の歌(4)・春の歌
4. 5月の歌(1)・5月の歌(2)
5. 5月の歌(3)・5月の歌(4)
6. 6月の歌(1)・6月の歌(2)
7. 6月の歌(3)・6月の歌(4)
8. 個人発表

## 準備学習

それぞれ課題に出された曲を完全に弾き歌いできるように練習する

## 評価方法

個人発表課題達成度100%

## 教科書

繁下和雄 著 『幼児のうた130選』 全国社会福祉協議会  
森本琢朗・池田恭子 共著 『ジュニアクラスの楽典問題集』 ドレミ楽譜出版

## 参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する

# 保育表現技術 (音楽表現)

## 概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法などの技法を身につける。  
できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。  
弾き歌いができるようにする。  
楽譜を読むために必要な基本的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田・村山・菅野(弘)・福地・長谷川
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

## 各回の内容

1. 7月の歌(1)・7月の歌(2)
2. 7月の歌(3)・7月の歌(4)
3. 8月の歌(1)・8月の歌(2)
4. 8月の歌(3)・8月の歌(4)
5. 夏の歌・9月の歌(1)
6. 9月の歌(2)・9月の歌(3)
7. 9月の歌(4)・9月の歌(5)
8. 個人発表

## 準備学習

それぞれ課題に出された曲を完全に弾き歌いできるように練習する

## 評価方法

実技試験80%、筆記試験20%

## 教科書

繁下和雄 著 『幼児のうた130選』 全国社会福祉協議会  
森本琢朗・池田恭子 共著 『ジュニアクラスの楽典問題集』 ドレミ楽譜出版

## 参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する

# 保育表現技術 (音楽表現)

## 概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法などの技法を身につける。  
できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。  
弾き歌いができるようにする。  
楽譜を読むために必要な基本的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田・村山・菅野(弘)・福地・長谷川
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

## 各回の内容

1. 秋の歌・10月の歌(1)
2. 10月の歌(2)・10月の歌(3)
3. 10月の歌(4)・11月の歌(1)
4. 11月の歌(2)・11月の歌(3)
5. 11月の歌(4)・12月の歌(1)
6. 12月の歌(2)・12月の歌(3)
7. 12月の歌(4)・12月の歌(5)
8. 個人発表

## 準備学習

それぞれに出された曲を完全に弾き歌いできるように練習する

## 評価方法

個人発表課題達成度100%

## 教科書

繁下和雄 著 『幼児のうた130選』全国社会福祉協議会  
森本琢朗・池田恭子 共著 『ジュニアクラスの楽典問題集』ドレミ楽譜出版

## 参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する

# 保育表現技術 (音楽表現)

## 概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法などの技法を身につける。  
できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。  
弾き歌いができるようにする。  
楽譜を読むために必要な基本的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田村山・菅野(弘)・福地・長谷川
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

## 各回の内容

1. 冬の歌・1月の歌(1)
2. 1月の歌(2)・1月の歌(3)
3. 1月の歌(4)・2月の歌(1)
4. 2月の歌(2)・2月の歌(3)
5. 2月の歌(4)・3月の歌(1)
6. 3月の歌(2)・3月の歌(3)
7. 3月の歌(4)・3月の歌(5)
8. グループ発表

## 準備学習

それぞれ課題に出された曲を完全に弾き歌いできるように練習する

## 評価方法

実技試験80%、筆記試験20%

## 教科書

繁下和雄 著 『幼児のうた130選』 全国社会福祉協議会  
森本琢朗・池田恭子 共著 『ジュニアクラスの楽典問題集』 ドレミ楽譜出版

## 参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する

# 保育表現技術(造形表現)

## 概要

保育の現場に必要な造形表現の基礎である、色彩の効果、描画材料・素材の特徴、紙や粘土などの立体表現を作品の制作（教材として）を通して身に付ける。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	45分×15回
単位数	1

## 目標

保育者自身が造形活動を通して、その楽しさ・面白さを味わい、豊かな感性や創造力を身に付けることができる。そのために必要な材料や道具等に関する具体的な知識や技能を身に付けることができる。

## 各回の内容

1. オリエンテーション
2. 色を楽しむ（色の性質）
3. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
4. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
5. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
6. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
7. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
8. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
9. 造形表現技法体験（立体 紙の造形）
10. 造形表現技法体験（立体 紙の造形）
11. 造形表現技法体験（立体 紙の造形）
12. 造形表現技法体験（立体 紙の造形）
13. 造形表現技法体験（立体 紙の造形）
14. 造形表現技法体験（立体 紙の造形）
15. 造形表現技法体験（画材と紙の特徴）

## 準備学習

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする。

## 評価方法

課題制作の構想10%、課題作品評価80%、制作の意欲・態度10%

## 教科書

なし

## 参考文献

その都度授業で紹介する。

# 保育表現技術(言葉)

## 概要

制作後の鑑賞会や作品のタイトル提示など、造形表現から子どもが獲得した「言葉」のイメージや意味がさらに広がりや深まりを見せること。また、逆に保育者の効果的な「言葉」の提示が、子どもの豊かでのびのびとした造形表現を導き出すこと。これらのことを造形活動を通して理解する。

担当教員	宍戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	45分×15回
単位数	1

## 目標

子どもが経験から育んだ言葉やそのイメージを生かし、さらに感性豊かな造形作品として表現させる知識や技能を身に付けることができる。

## 各回の内容

1. オリエンテーション
2. 季節を形に表す(クレヨン表現)「お願いサンタさん」
3. 季節を形に表す(クレヨン表現)「お願いサンタさん」
4. 季節を形に表す(クレヨン表現)「お願いサンタさん」
5. 季節を形に表す(クレヨン表現)「お願いサンタさん」
6. 季節を形に表す(粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
7. 季節を形に表す(粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
8. 季節を形に表す(粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
9. 季節を形に表す(粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
10. 季節を形に表す(粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
11. 季節を形に表す(粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
12. イメージが豊かに広がる造形(モダンテクニック)「魔法のお水」
13. イメージが豊かに広がる造形(モダンテクニック)「魔法のお水」
14. タイトルから自分だけの表現に(動物の特徴をとらえる)
15. タイトルから自分だけの表現に(動物の特徴をとらえる)

## 準備学習

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする

## 評価方法

課題制作の構想	10%
課題作品評価	80%
制作の意欲・態度	10%

## 教科書

なし

## 参考文献

その都度授業で紹介する。

# こどもとことば

## 概要

子どもの言葉の発達について学び、発達段階に応じたかかわり方について考える。保育者として、子どもの言葉の発達を支える方法について考える

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

子どもの言葉の発達について理解し、発達を支える方法について理解する。

## 各回の内容

1. ガイダンス
2. 乳幼児のことばの発達を考える
3. ことばとしての身体表現
4. コミュニケーションとしてのことば
5. 「何で」「どうして」という質問を通して育つもの
6. なりきることやごっこ遊びを通して育つもの
7. 文化財との出会いにより育つもの
8. まとめ

## 準備学習

参加観察の中で子どもとしっかりかかわる。

## 評価方法

小レポート30%  
試験70%

## 教科書

最新保育講座 保育内容「言葉」柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美 編 ミネルヴァ書房

## 参考文献

その都度紹介する

# 障がい児保育

## 概要

障害の特性について学び、保育の中でのかかわり方について考える。  
障害を持つ子どもの保護者を支えることについて学ぶ。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

障害特性について理解し、保育の中での子どもの見方やかかわり方について理解する。  
保護者支援や機関連携について理解する。

## 各回の内容

1. 障害児保育とは
2. 障害を持つ子どもとのかかわり
3. 知的障害の子ども
4. 自閉症スペクトラム障害の子ども 1
5. 自閉症スペクトラム障害の子ども 2
6. 注意欠如多動性障害の子ども
7. 言語障害の子ども
8. 運動機能障害の子ども
9. 聴覚障害の子ども
10. 障害を持つ子どもの家族を支える
11. 診断から療育へ
12. 専門機関や医療機関とのつながり
13. 本人の気持ち
14. ケース会議の持ち方
15. まとめ

## 準備学習

実習の中で「気になる子ども」について記録し話し合う。

## 評価方法

小レポート30%  
発表と課題レポート70%

## 教科書

鯨岡 峻『最新保育講座「障害児保育」』ミネルヴァ書房

## 参考文献

星山麻木 編『障害児保育ワークブック』萌文書林

# 乳幼児と共に

## 概要

3歳未満児の発達と保育内容について学び、乳幼児保育の役割や理論、技術について学ぶ。  
 未満児の発達の連続性や保育内容について、「親と子の広場」での保育参加観察を通して、体験的に学び、共有しながら学びを深める。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

新生児から3歳未満児までの発達と保育内容を学び、乳幼児保育の基本的な理論、知識、技術について理解することができるようになる。手作り教材を使用し、模擬保育を計画実践し、未満児の保育内容やかかわりを体験的に理解しながら、保育実習に臨む力をつける。

## 各回の内容

1. 育ちのダイナミズム
2. 対話する保育とは
3. 保育の中で出会った対話について考える
4. 育ちを支えるたくさんの気づき
5. 新生児期から乳児期前期までの発達と保育
6. 乳児期中期の育ちとかかわり(1)
7. 乳児期中期の育ちとかかわり(2)
8. 乳児期後期の育ちとかかわり
9. 1歳代の育ちとかかわり(1)
10. 1歳代の育ちとかかわり(2)
11. 2歳代の育ちとかかわり
12. 発達と保育の連続性を考える
13. 未満児保育の計画を考える
14. 乳幼児の親子と精神保健
15. まとめ

## 準備学習

参加観察において、乳幼児と積極的にかかわりを持ち、その発達に関心を持って授業に臨む。

## 評価方法

参加観察記録レポート30%  
 乳幼児の発達と保育まとめレポート70%

## 教科書

田中真介『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい

## 参考文献

その都度紹介する

# こどもの保健

## 概要

子どもに関わり支援する上で必要な健康についての理解を深める。  
子どもの体の仕組みや、成長発達についての特徴を理解する。

担当教員	山下敦子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。子どもの疾病とその予防法および適切な対応について理解する。

## 各回の内容

1. 子どもの健康と保健の意義
2. 子どもの成長・発達・発育の意味
3. 子どもの生理機能の発達と保健
4. 子どもの生理機能の発達と保健
5. 子どもの運動機能の発達と保健
6. 子どもの社会性の発達と保健
7. 子どもの情緒の発達と保健
8. 子どもの言葉の発達と保健
9. 子どもの認知能力の発達と保健
10. 子どもの病気と看護
11. 子どもの病気と看護
12. 子どもの病気と看護
13. 乳幼児の基本的ケア 授乳・調乳
14. 乳幼児の基本的ケア おむつ
15. 乳幼児の基本的ケア 抱っこ・おんぶ

## 準備学習

講義時に次回予告をしますので教科書等で予習をすること

## 評価方法

振り返りシート100%

## 教科書

遠藤郁夫 他 編集 『子どもの保健 子ども健康と安全を守るために』 学建書院  
兼松百合子 『子どもの保健・実習—すこやかな育ちをサポートするために』 同文書院

## 参考文献

その都度、授業で紹介する

# 保育実習指導

## 概要

1年次の保育実習指導 では、保育実習（保育所）に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法などを理解し、実習日誌の書き方について学ぶ。また実習後は、実習で体験し学んだことを整理して確認し、保育士の役割や乳幼児の発達成長にかかわる援助のあり方に関する基本的事項を理解する。

担当教員	奥田・坂本・堺・長谷川
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

（事前）実習の目的や内容、方法などを理解できる。

（事後）実習で体験し学んだことを整理して確認し、保育士の役割や乳幼児の発達成長にかかわる援助のあり方を理解できる。

## 各回の内容

1. 保育所についての基本的な理解
2. 保育所についての基本的な理解
3. 保育所についての基本的な理解
4. 観察実習の目的、内容、方法などの理解
5. 観察実習の目的、内容、方法などの理解
6. 部分・全日実習の目的、内容、方法などの理解
7. 部分・全日実習の目的、内容、方法などの理解
8. 実習日誌の書き方についての指導
9. 実習日誌の書き方についての指導
10. 実習日誌の書き方についての指導
11. 実習に際しての留意事項
12. 実習の体験の発表と共有化
13. 実習の体験の発表と共有化
14. 実習の反省と自己課題の発見、今後の取り組み
15. まとめ

## 準備学習

配布資料を熟読し、観察の視点や実習日誌の書き方について理解する。実習後は、体験を通しての学びや今後の課題・目標を明らかにする。

## 評価方法

課題およびレポート 50%  
提出物 50%

## 教科書

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』

## 参考文献

保育所保育指針解説

## 保育実習（保育所）

### 概要

既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養い、さらに保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。

担当教員	坂本・狩野・堺・奥田・山下・長谷川
授業形態	実習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	10日間
単位数	2

### 目標

保育所の役割や機能等を実践現場での体験を通して具体的に理解することができる。

### 各回の内容

- 
1. 実習内容については「保育実習の手引き」を参照のこと
- 

### 準備学習

実習施設について、その目的や設備・職員配置等についてまとめ、理解を深める

### 評価方法

実習先の評価70%

実習日誌の記録内容30%

### 教科書

なし

### 参考文献

なし

## 保育表現技術(身体表現)

### 概要

石山波恵先生の専門であるダンスの指導をはじめ、こどもが遊ぶ遊びや手遊びを学び、グループで模擬保育をおこない、振り返りをする。振り返りのなかから反省点を捉え、改善策を考える。

担当教員	堺 秋彦・石山 波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

### 目標

多様なダンスや遊びを通じて、各素材にある「感性」を育てる要素をみつけ、保育においてこどもが自発的に楽しみながら表現活動に取り組み、「感性」を育ていける保育技術を身につけることができる。

### 各回の内容

1. オリエンテーション	・	グループ決め
2. 楽しいダンス	1	
3. 楽しいダンス	2	・ 模擬保育 1
4. 楽しいリトミック	1	・ 模擬保育 2
5. 楽しいリトミック	2	・ 模擬保育 3
6. 楽しい遊び	1	・ 模擬保育 4
7. 楽しい遊び	2	・ 模擬保育 5
8. まとめ		

### 準備学習

模擬保育の準備をグループで進める。

### 評価方法

表現力 50%  
 模擬保育 50%

### 教科書

なし

### 参考文献

なし

# 保育表現技術 (身体表現)

## 概要

保育表現技術(身体表現)に引き続き、創作ダンスに向けた取り組みと模擬保育をおこなう。授業に組み込みながら、こどもの視点に立った促し方や気持ちの受け止め方を考える。「こどもだったら」ということを常に念頭に置き授業を進める。

担当教員	堺 秋彦・石山 波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

多様なダンスや遊びを通して、各素材にある「感性」を育てる要素を見つけ、保育においてこどもが自発的に楽しみながら表現活動に取り組み、「感性」を育んでいける保育技術を身につけることができる。

## 各回の内容

1.	オリエンテーション		
2.	こどもとダンス 1	・	模擬保育 1
3.	こどもとダンス 2	・	模擬保育 2
4.	こどもと遊び 1	・	模擬保育 3
5.	こどもと遊び 2	・	模擬保育 4
6.	創作ダンス 1	・	模擬保育 5
7.	創作ダンス 2	・	模擬保育 6
8.	まとめ		

## 準備学習

模擬保育の準備をグループで進める。

## 評価方法

表現力 50%  
 模擬保育 50%

## 教科書

なし

## 参考文献

なし

# 保育表現技術 (身体表現)

## 概要

芸術表現発表会に向けて、グループを作り、「テーマ」を決め前期で習得した創造力と表現力を活かし、ダンスを創作する。

担当教員	堺秋彦・石山波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

ダンスの特性を理解し、テーマにあった内容を「想像」から「創造」し、ダンスを創作することができる。

## 各回の内容

1. オリエンテーション
2. グループ決め・テーマ決め
3. ダンス創作 1
4. ダンス創作 2
5. ダンス創作 3
6. ダンス創作 4
7. ダンス創作 5
8. まとめ

## 準備学習

グループでダンスを創作するための相談をする。

## 評価方法

創作力 50%  
課題達成度 50%

## 教科書

なし

## 参考文献

なし

# 保育表現技術 (身体表現)

## 概要

芸術表現発表会に向けて、グループごとにダンスを創作し、練習をおこないながら保育者に必要な表現力を身に付ける。

担当教員	堺 秋彦・石山波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

ダンスの特性を理解したうえで、各自の創造性、協調性を発揮し、創作ダンスを通じて保育者としての「表現力」を高めることができる。

## 各回の内容

1. オリエンテーション
2. 創作ダンス1
3. 創作ダンス2
4. 創作ダンス3
5. 創作ダンス4
6. 創作ダンス5
7. 芸術表現発表会
8. まとめ

## 準備学習

グループで創作ダンスの練習をおこなう。

## 評価方法

表現力 50%  
課題達成度 50%

## 教科書

なし

## 参考文献

なし

# こどもと絵本

## 概要

保育の中での絵本読みあいの意味や方法について考える。  
絵本読みあいにおける、こどものイメージや想像性の発展について考え、読みあいに使用する絵本の選択や、読みあいの工夫について考える。部分実習の指導案を作成して模擬保育を行い、省察をする。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

- ・絵本読みあいの歴史から、読みあいの意味について考える
- ・部分実習指導案の作成とともに模擬保育の実践を行い、保育実習に臨む課題について考える。

## 各回の内容

1. 子どもの文化財の役割と活用
2. 絵本読みあいの歴史から考える
3. 幼稚園での読みあいから考えたこと1
4. 幼稚園での読みあいから考えたこと2
5. 読みあいに使いたい絵本を選ぶ
6. 読みあいの実演：グループワーク1
7. 読みあいの実演：グループワーク2
8. グループワークの内容を紹介する
9. 未満児の絵本を選んでみよう
10. 指導案を作ってみよう1
11. 部分指導案をもとに実演をする1
12. 絵本読みあい実演とグループワーク
13. 部分指導案をもとに実演する2
14. 省察
15. 省察 まとめ

## 準備学習

絵本の読みあいに関心を持ち、子どもに合った絵本の選択をする

## 評価方法

指導案作成と実演50%  
最終課題50%

## 教科書

絵本から学ぶ子どもの文化 同文書院 浅木尚実編

## 参考文献

その都度紹介する